

ノストラダムスの大予言 〈女子短大生についての意識調査〉

佐藤 健 (山陽女子短期大学)

はじめに

「ノストラダムスの大予言」なるものによると、「1999年7の月、恐怖の大王が天より降り立つ」そうである。これについては、「ハルマゲドンが起きる」とか「天体が地球に衝突する」とか、数多くの解釈が行われている。

筆者の前職は広島市こども文化科学館のプラネタリウム担当であるが、来館する子供たちに「君たちは頑張れば、みんな宇宙旅行が出来るようになるよ」というような明るい未来の話をして、子供たちからは「そう言っても、僕たち(私たち)は1999年には死ぬんだもん」というような返事がかえってくる場合が多かった。このように、「大予言」は、子供たちに非常に悪影響を与えているようである。

では、もっと上の年齢に対する「大予言」の影響はどうであろうか。筆者は、山陽女子短期大学(広島県廿日市市)で筆者の授業「宇宙と人間」を受講している1年生について、アンケート調査を行ってみた。

筆者の授業に登録している学生は86名で、調査を行った1999年6月21日の出席者は79名。アンケートは無記名で行い、65名から回答が得られた。

1. 集計結果

アンケートの結果は次の通りである。パーセントは該当する人数の、回答者総数65名に対するものである。したがって、複数回答のものは合計が100%を越える。

問1 「ノストラダムスの大予言」について聞いたことがありますか。

回答 A: ある 65名(100%)
B: ない 0名(0%)

問2 何によって知りましたか。

(複数回答可)

回答 A: テレビ 59名(91%)
B: ラジオ 2名(3%)
C: 新聞 5名(8%)
D: 週刊誌 10名(15%)
E: 月刊雑誌 1名(2%)
F: 単行本 7名(11%)
G: 人の話 39名(60%)
H: その他 2名(3%)

(「なんとなく知った」というのと「子供向け図鑑で知った」というのが各1名あった。)

問3 今年、何か大変なことが起きると言われていますが、それが起きるのは何月だと言われていきますか。

回答 A: 6月 0名(0%)
B: 7月 49名(75%)
C: 8月 16名(25%)
D: 9月 2名(3%)
E: 10月 0名(0%)
F: 11月 1名(2%)
G: 12月 0名(0%)

(複数回答は予想していなかったが、7月と8月の両方をあげた人が3名いた。それも有効にした。)

- 問4 この予言のことが気になりますか。
 回答 A:非常に心配である 12名(18%)
 B:少し心配である 19名(29%)
 C:あまり気にならない 21名(32%)
 D:ぜんぜん気にならない13名(20%)

2. 結果の要約

1. 「ノストラダムスの大予言」について、回答者全員が知っていた。

2. 情報源としてはテレビが圧倒的であり、次いでロコミである。ずっと下って週刊誌、そして単行本、新聞と続き、その他は無視できる程度である。ただし、ノストラダムス騒動の発端は単行本であるから、これが震源となって、それを主としてテレビが拡大再生産したということであろう。

3. 「大予言」が実現するのは、今年の残りの月のうち、7月と回答した人が圧倒的に多く、かなり下って8月であり、その他では9月と回答した人が2名と11月と回答した人が1名だけいた。7月が圧倒的に多いのは、大多数の人が「1999年7の月」と言われていることを知っているということであろう。8月が何を意味するのか不明であるが、この月に「惑星グランドクロス」が起きると言われていることを知っている人がかなりいるということであろうか。(因みに、実際には、この時の惑星の配列はクロス(十字形)と言うには、はど遠い。)

4. 予言されていることが起きることを「非常に心配」している人が全体の約5分の1(18%)あり、「少し心配」な人(29%)を加えると、ほぼ半数の人(47%)が心配している。

3. 結果の評価

「1999年7の月」を直前にひかえての「駆け込み調査」であり、他の年齢層や同年齢層の男性についての調査もしていないので、この調査から多くを語ることは出来ないが、「ノ

ストラダムスの大予言」なるものが、日本の成人直前の人々(調査したのは女性だけだが)の精神状況に相当の悪影響を与えていることは言えるであろう。

情報源としては、予想通りと言うべきかもしれないが、テレビが圧倒的に強いことが分った。

終りに

良い予言(予測)とは、複数の解釈を許さない予言である。例えば、天気予報も一種の予言であるが、「いつか、どこかで、何かが降る」といった予報では100%当たるかわりに、全く役には立たない。「広島県南部では、明日の午後から雨が降る」というように、場所や日時を指定し、降るのは雨なのか雪なのか何なのかを述べなくては予報とは言えない。その点、「ノストラダムスの大予言」は何通りにも解釈でき、予言としては完全に失格である。「非常によく当たっている」というが、広島県南部で雨が降ったという結果から「いつか、どこかで、何かが降る」と言っていたのはこの事だったのだ。当たった!と言うのと同じ類である。

このような点について、アンケートを取った次の週の授業で講義した。また、テレビをはじめマスコミ報道には「ノストラダムスの大予言」以外にも超能力、心靈写真、UFO情報等々、視聴率や売り上げだけを動機とした無責任なものが多いので、マスコミに出ているからといって頭から信じるのではなく、「懐疑的精神」をもって接する必要があることを強調した。